

(51) Int.Cl.⁶

A 4 1 C 3/10

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 1 C 3/10

技術表示箇所

B

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平7-152949

(22) 出願日 平成7年(1995)6月20日

(71) 出願人 000133456

株式会社ダッチェス

神奈川県厚木市田村町6番11号

(72) 発明者 高津 章

神奈川県厚木市田村町6番11号 株式会社
ダッチェス内

(72) 発明者 神崎 礎利

神奈川県厚木市田村町6番11号 株式会社
ダッチェス内

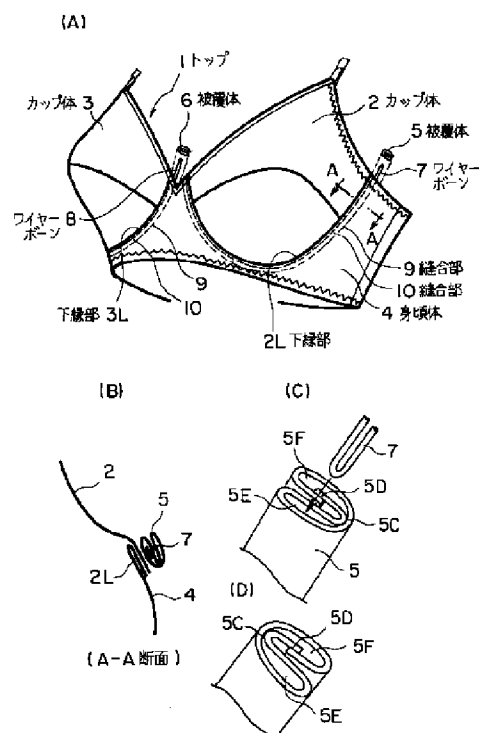
(74) 代理人 弁理士 唐木 貴男 (外2名)

(54) 【発明の名称】 ワイヤーボーン挿入構造

(57) 【要約】

【目的】 筒状の被覆体内においてワイヤーボーンが妄動することなく、安全かつ違和感のない着心地に優れたブラジャー等のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造を提供するものである。

【構成】 左右のバストを収容する両カップ体2(3)の少なくとも下方から脇下までの下縁部2L(3L)に添設され、これらカップ体2(3)の下縁部2L(3L)の形状と同形に曲げられた左右のワイヤーボーン7(8)を有するブラジャー等のトップ1において、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合5Cして2つの部屋5E、5F(6E、6F)が形成された断面の筒状の被覆体5、(6)を、該被覆体5(6)における人体から遠い方の部屋5E(6E)にワイヤーボーン7(8)を挿入して前記下縁部2L(3L)に添設して構成したことを特徴とするものである。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 左右のバストを収容する両カップ体の少なくとも下方から脇下までの下縁部に添設され、これらカップ体の下縁部の形状と同形に曲げられた左右のワイヤーボーンを有するブラジャー等のトップにおいて、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合して2つの部屋が形成された断面の筒状の被覆体を、該被覆体における人体から遠い方の部屋にワイヤーボーンを挿入して前記下縁部に添設して構成したことを特徴とするワイヤーボーン挿入構造。

【請求項2】 前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体は、一つの接合部にて接合されて形成されるとともに、該接合部は前記ワイヤーボーンが挿入されない方の部屋に存在せしめたことを特徴とする請求項1に記載のワイヤーボーン挿入構造。

【請求項3】 前記筒状の被覆体を、被覆強度の高い内層とソフトで吸湿性に富む外層の2重構造としたことを特徴とする請求項1または2に記載のワイヤーボーン挿入構造。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、ブラジャー等のトップにおいて使用されるバスト補正用のワイヤーボーン挿入構造に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、ブラジャーや水着、ボディスーツ等のトップにおいては、バスト収容部であるカップ体の保形および整容を目的として、バスト補正用のワイヤーボーンが多用されている。そのような従来の1例を図4に示す。図4（A）に示すように、ブラジャー等のトップ21における左右のカップ体22、23の下縁部22L、23Lはトップの本体部を構成する身頃体24に縫合等により接合され、該下縁部22L、23Lに沿って添設された筒状の被覆体25、26（図4（B）、

（C）は左カップ体22側のみ示している）内にカップ体22、23の下縁部22L、23Lの形状と同形に曲げられた断面が円形や偏平形状の鋼製あるいはプラスチック製のワイヤーボーン27、28が挿入されて構成されている。そして、これらカップ体の下縁部22L、23Lに沿って添設される筒状の被覆体25、26は、図4（B）、（C）に示されるように袋縫いあるいは筒縫いにより、挿入されるワイヤーボーン27と人体との間に位置する人体に接する側（図面で上側）が2重あるいは3重になるように構成されて、ワイヤーボーン27による人体への異物感を和らげていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところが、このような構成の従来のものにおいては、通常、袋縫いあるいは筒縫いによって構成される筒状の被覆体25における内部の縁部と筒部との間には隙間25Pが存在するために、

該隙間25Pを通過してワイヤーボーン27が矢印のように妄動してしまい、ワイヤーボーン27と人体との間の被覆体25の布層が1重になる虞れがあった。この結果、ワイヤーボーン27による人体への異物感を生じたり、最悪の場合、ワイヤーボーン27の端部が人体側に抜け出す虞れもあった。また、図4（D）に示されるように、前記被覆体25を身頃体24に縫合部29、30にて縫合して前記ワイヤーボーン27が挿入される部屋を形成する接合部25Dを形成するとしても、該接合部25Dはワイヤーボーン27が挿入されている部屋に面していることにより、ワイヤーボーン27の縫合部25Dからの抜出しの可能性が高いものであった。本発明は、以上述べたような従来のワイヤーボーンを有するブラジャー等のトップの課題を解決して、筒状の被覆体内においてワイヤーボーンが妄動して抜け出すことなく、安全かつ違和感のない着心地に優れるブラジャー等のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、本発明は、左右のバストを収容する両カップ体の少なくとも下方から脇下までの下縁部に添設され、これらカップ体の下縁部の形状と同形に曲げられた左右のワイヤーボーンを有するブラジャー等のトップにおいて、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合して2つの部屋が形成された断面の筒状の被覆体を、該被覆体における人体から遠い方の部屋にワイヤーボーンを挿入して前記下縁部に添設して構成したことを特徴とするもので、また、本発明は、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体は、一つの接合部にて接合されて形成されるとともに、該接合部は前記ワイヤーボーンが挿入されない方の部屋に存在せしめたもので、さらに、前記筒状の被覆体を、被覆強度の高い内層とソフトで吸湿性に富む外層の2重構造としたことを特徴とするもので、これらを課題解決のための手段とするものである。

【0005】

【作用】本発明は、左右のバストを収容する両カップ体2、3の少なくとも下方から脇下までの下縁部2L、3Lに添設され、これらカップ体2、3の下縁部2L、3Lの形状と同形に曲げられた左右のワイヤーボーン7、8を有するブラジャー等のトップ1において、閉じたループ状のほぼ中間点Cを折り曲げて重合部5C（6C）して2つの部屋5E、5F（6E、6F）が形成された断面の筒状の被覆体5（6）を、該被覆体5（6）における人体から遠い方の部屋5E（6E）にワイヤーボーン7（8）を挿入して前記下縁部2L（3L）に添設して構成したので、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合するだけで、ワイヤーボーンが内部にて妄動することのない筒状の被覆体が容易に得られ、しかも、ワイヤーボーンと人体との間には3層の布層が常に介在し

て、人体に対して異物感等の違和感がない。その上、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体5は、一つの接合部5Dにて接合されて形成されるとともに、該接合部5Dは前記ワイヤーボーン7が挿入されない方の部屋5F側に存在せしめたので、ワイヤーボーン7が突き出る虞れのある前記接合部5Dから隔離されることと相俟って、前記3層の布層（2重構造の布であれば、6層の布層）は、特に洗濯時等におけるワイヤーボーンの端部の被覆体外への拔出しを完全に防止でき、安全で着心地に優れるブラジャー等のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造が得られる。しかも、ワイヤーボーン7は前記重合部5Cを挟んで2重の縫合部9を介在して離れた位置に前記接合部5Dと対置されることになるので、ワイヤーボーン7の拔出し防止対策は万全となる。これによって、バストアップ機能を高める際のカップ体の保形および整容を目的としたバスト補正用のワイヤーボーンの機能を十分に発揮できる。

【0006】

【実施例】以下本発明の実施例を、図面に基づいて詳細に説明する。図1は本発明の1実施例で、図1（A）は本発明のワイヤーボーン挿入構造を採用したブラジャーの全体斜視図であり、図1（B）はそのA-A断面図を示し、図1（C）（D）はワイヤーボーンが挿入される被覆体の斜視図である。図2は被覆体を形成する工程を例示した断面図である。図1（A）およびそのA-A断面である図1（B）に示すように、ブラジャー等トップ1の左右のカップ体2、3の少なくとも下方から脇下までの下縁部2L、3Lはトップ1の本体部を構成する身頃体4に縫合等により接合され、該下縁部2L、3Lに沿って添設された筒状の被覆体5、6（図1（B）、

（C）は左カップ体2側のみ示している）内にカップ体2、3の下縁部2L、3Lの正面および人体の断面形状と同形に曲げられた断面が円形や偏平形状で折り返されて2重構造等に形成された鋼製あるいはプラスチック製のワイヤーボーン7、8が挿入される。

【0007】ワイヤーボーン7、8が挿入されるべき被覆体5、6は、図2にて例示されるような工程によって図1（C）のように形成される。以下これを説明する。図2は左カップ体2側の被覆体5についての形成工程であり、図2（A）のような切り口が直線状断面の布体を、内側となるべきワイヤーボーンを完全にカバーして突き出しを防止できる強度と緻密さを備えた織物または編物からなる内層5Bと、外側となるべき肌触りが良くソフトで弾力に富み、吸湿性のある素材の外層5Aとの貼合せや2重織りによる2重構造とする。これら内外層の布体はカップ体2、3の下縁部2L、3Lの正面および人体の断面形状と同形に曲げられて縫製されることから、柔軟性があることが望ましい。かくのごとき布体を、図2（B）のように、その両端部を折り返し、中間点Cよりやや偏った位置（点線位置）にて突き合わせる

ことによって閉じたループ状の断面の筒状被覆体5を形成する。前記突合せ部を接合して接合部5Dを得ることになるが、図2（E）に示したものは図2（B）の例をそのまま接合したもの、図2（C）に示したものは図面左端部をミシン等により縫合して袋縫いにより被覆体5を形成したもの、図2（D）に示したものは点線位置にて矢印のように3層分を重合して接合したものである。かく形成した閉じたループ状の断面の筒状体を前記中間点Cにおいて5Cのごとく縫合や他の適宜の方法にて重合し、該中間点Cにて筒状体を折り曲げて2つの部屋5E、5F（図示しない右側は6E、6F）が形成された断面の筒状の被覆体5を、図1（C）に示したように該被覆体5における人体から遠い方の部屋5Eにワイヤーボーン7を挿入し、これを前記カップ体2の下縁部2Lの内側（人体側）に添設して構成するものである。この結果、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体5は、一つの接合部5Dにて接合されて形成されるとともに、該接合部5Dは前記ワイヤーボーン7が挿入されない方の部屋5Fに存在せしめられることになる。なお、重合部5Cに関しては、縫合等により適宜接合されてもよい。かくして、前記ワイヤーボーン7を挿入した被覆体5を、カップ体2の下縁部2Lとなる見頃体4との間の接合部に、図2（G）に示したように、縫合部9、10によって縫合する。なお、図1（D）に示すように、ワイヤーボーン7を挿入した被覆体5をカップ体2の下縁部2Lの内側に添設して縫合するのに、図1（C）の場合と天地を逆にした構成のものを縫合することもできる。

【0008】以上の構成によって、閉じたループ状のほぼ中間点Cを折り曲げて重合部5Cにて重合して2つの部屋5E、5Fが形成された断面の筒状の被覆体5を、該被覆体5における人体から遠い方の部屋5Eにワイヤーボーン7を挿入して前記下縁部2Lに添設して構成したので、閉じたループ状のほぼ中間点Cを折り曲げて重合するだけで、ワイヤーボーン7が内部にて妄動することのない筒状の被覆体5が容易に得られ、しかも、ワイヤーボーン7と人体との間には3層の布層が常に介在して、人体に対して異物感等の違和感がない。その上、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体5は、一つの接合部5Dにて接合されて形成されるとともに、該接合部5Dは前記ワイヤーボーン7が挿入されない方の部屋5F側に存在せしめたので、ワイヤーボーン7が突き出る虞れのある前記接合部5Dから隔離されることと相俟って、前記3層の布層（2重構造の布であれば、6層の布層）は、特に洗濯時等におけるワイヤーボーンの端部の被覆体外への拔出しを完全に防止でき、安全で着心地に優れるブラジャー等のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造が得られる。しかも、ワイヤーボーン7は前記重合部5Cを挟んで2重の縫合部9を介在して離れた位置に前記接合部5Dと対置されることになるので、ワイ

ワイヤーボーン7の拔出し防止対策は万全となる。これによって、バストアップ機能を高める際のカップ体の保形および整容を目的としたバスト補正用のワイヤーボーンの機能を十分に発揮できる。バストを確実に確保しながらずれることなくこれを行うことが可能となり、きわめて効果的である。

【0009】図3は、本発明の第2実施例の被覆体のワイヤーボーン挿入構造を示す図であり、前記実施例のものが、閉じたループ状の断面が筒状の被覆体5を形成するのに、接合部5Dを重合して形成していたのに対して本実施例では、該接合部5Dを図3（A）に示すように突き合わせて適宜の形態にて縫合したものである。かく形成した閉じたループ状の断面が筒状体を図3（B）に示したように、中間点Cを折り曲げて重合部5Cにて重合して2つの部屋5E、5Fを形成したものである。これによって、前記接合部5Dはその厚さ方向に嵩張ることがなく、着用感を向上させることができる。図3

（C）は、これを拡大して示したもので、前記実施例と同様に、中間点Cにて筒状体を折り曲げて重合部5Cにて2つの部屋5E、5Fが区画形成された断面の筒状の被覆体5における人体から遠い方の部屋5Eにワイヤーボーン7を挿入し、これを前記カップ体2の下縁部2Lの内側（人体側）に添設して構成するものである。この結果、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体5は、一つの突き合わされた接合部5Dにて接合されて形成されるとともに、該接合部5Dは前記ワイヤーボーン7が挿入されない方の部屋5Eに存在せしめられることになる。なお、符号Dは前記第1実施例のものと同様であるが、接合部5Dが位置する好ましい範囲を示している。また、その際、図3（D）に示すように、接合部5Dが上下布地を同時にジグザグ状に縫合して形成される場合には、中間点である重合部5Cからの距離 δ が小さい程、つまり接合部5Dが重合部5Cに近い程、重合部5Cにおける上下布地を近接させることができるので、2重の布を折り曲げての重合部5Cにおける縫合9がより完璧となる。

【0010】以上、本発明の各実施例を説明してきたが、本発明の趣旨の範囲内において、被覆体の層数、材質、ループ状体の断面形状（閉じたループ形状を形成する接合部の接合形態等）および被覆体のカップ体の下縁部への接合形態、ワイヤーボーンの形状例えば、パイプ状、波形ワイヤー形状、撚り線形状、各種断面形状等、材質、色彩等、さらには、カップ体と身頃体との接合形態については適宜の形態を採用できるものである。また、本発明のワイヤーボーンが適用されるのはブラジャーのみならず、水着やボディースーツ等その他類似のものにも適用が可能なことは言うまでもないことである。

【0011】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明によれば、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合して

2つの部屋が形成された断面の筒状の被覆体を、該被覆体における人体から遠い方の部屋にワイヤーボーンを挿入して前記下縁部に添設して構成したので、閉じたループ状のほぼ中間を折り曲げて重合するだけで、ワイヤーボーンが内部にて妄動することのない筒状の被覆体が容易に得られ、しかも、ワイヤーボーンと人体との間には3層の布層が常に介在して、人体に対して異物感等の違和感がない。その上、前記閉じたループ状の断面が筒状の被覆体は、一つの接合部にて接合されて形成されるとともに、該接合部は前記ワイヤーボーンが挿入されない方の部屋側に存在せしめたので、ワイヤーボーンが突き出る虞れのある前記接合部から隔離されることと相俟って、前記3層の布層（2重構造の布であれば、6層の布層）は、特に洗濯時等におけるワイヤーボーンの端部の被覆体外への拔出しを完全に防止でき、安全で着心地に優れるブラジャー等のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造が得られる。しかも、ワイヤーボーンは前記重合部を挟んで2重の縫合部を介在して離れた位置の前記接合部と対置されることになるので、ワイヤーボーン7の拔出し防止対策は万全となる。これによって、バストアップ機能を高める際のカップ体の保形および整容を目的としたバスト補正用のワイヤーボーンの機能を十分に発揮できる。バストを確実に確保しながらずれることなくこれを行うことが可能となり、きわめて効果的である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の1実施例を示すもので、図1（A）は本発明のワイヤーボーン挿入構造を採用したブラジャーの全体斜視図、図1（B）はそのA-A断面図、図1（C）はワイヤーボーンが挿入される被覆体の斜視図である。

【図2】本発明の被覆体を形成する工程を例示した断面図である。

【図3】本発明の第2実施例の被覆体のワイヤーボーン挿入構造を示す図である。

【図4】従来のトップにおけるワイヤーボーン挿入構造を示す図である。

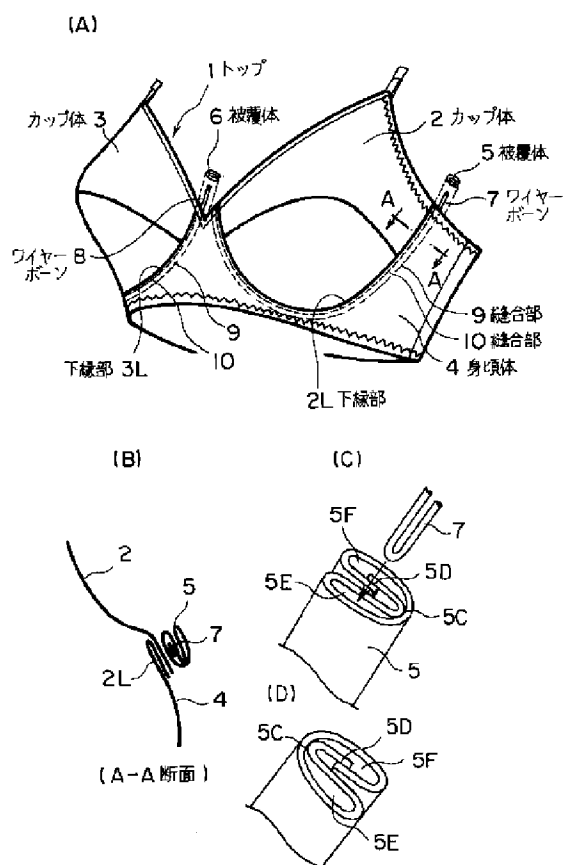
【符号の説明】

- 1 ブラジャー等のトップ
- 2、3 カップ体
- 2 L 下縁部
- 3 L 下縁部
- 4 身頃体
- 5 被覆体
- 5 A 外層
- 5 B 内層
- 5 C 重合部
- 5 D 接合部
- 5 E 部屋
- 5 F 部屋
- 6 被覆体

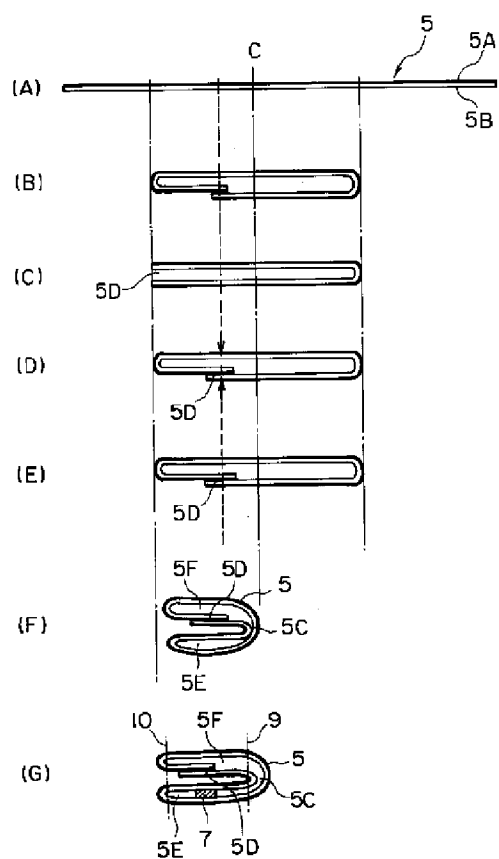
7、8 ワイヤーボーン
9 縫合部

10 縫合部

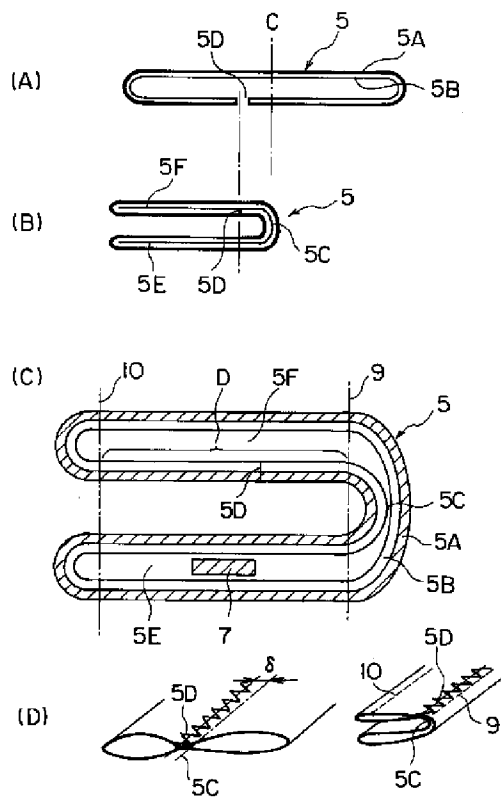
【図1】



【図2】



【図3】



【図4】

